



Earth 2027

先生・学校・コーディネーターのためのガイド

印刷できる10枚の地球カードと教室用ポスターを、
13言語で——作家Pemba Umojaからの無料の贈り物です。

2026年10月

pembaumoja.com

Earth 2027とは

Earth 2027（地球 2027）は、作家Pemba Umojaから世界中の学校へ贈る、印刷できる10枚のカードと教室用ポスターです。どのカードにも、木、川、種、静けさ、そして私たちが分かち合う一つの世界についての短い言葉が書かれています。アースデイ（4月22日）と世界環境デー（6月5日）に合わせて作られ、2027年12月まで実施します。地球は、一年を通して学びの場だからです。

すべて無料です。購入するものも、アカウント登録も、アプリのインストールも、メールマガジンへの登録もありません。PDFを印刷し、カードを切り取り、ポスターを貼る。それだけです。

セットの内容

- **地球カード10枚** —— 木、水、種、辛抱強さ、そして自然の世界の一員であることについての短い言葉です。どのカードにも著者名が入っています。
- **教室用ポスター1枚** —— 「一粒の種が森を育てる。」
- **13言語** —— アラビア語、ベンガル語、中国語（簡体字）、英語、フランス語、ドイツ語、ヒンディー語、インドネシア語、日本語、スワヒリ語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語。各セットは印刷用PDFで、ポスター1ページとカード用シート4ページから成ります。
- **白黒印刷にも対応** —— どのプリンターでも印刷できるようにデザインしています。できれば再生紙に、そして使う分だけ印刷してください。

あなたの言語でダウンロード：pembaumoja.com/ja/earth-2027

著者について

Pemba Umojaは、人生、意味、静かなつながりをテーマに短編小説、詩、アフォリズムを書く作家です。作品はpembaumoja.comで13言語により無料公開されています。Earth 2027は、「学校における暴力といじめに反対するユネスコ国際デー」のために作られたカードセット、Kindness 2027の姉妹編です。

アースデイと国連について： この教材は、アースデイ（4月22日）と国連の世界環境デー（6月5日）の趣旨に沿って作られ、各学校と、Kindness 2027を受け取られたASPnet（ユネスコスクール）のコーディネーターに共有されているものです。ただし、国際連合、ユネスコ、国連環境計画（UNEP）、EARTHDAY.ORGの公式プログラムや公式出版物ではなく、これらの公式な承認・推奨を受けたものでもありません。

カードの使い方：10日間のチャレンジ

おすすめの進め方はシンプルです。**登校日の10日間、一日一枚ずつカードを使う**、というものです。

- **みんなで読む** —— その日のカードを声に出して読みます（1分）。できれば外で、または窓のそばで読んでみてください。
- **話し合う** —— 下の問いを使って、2分間話し合います。
- **言葉どおりに過ごす** —— その日の残りの時間、子どもたちはカードの考えを実践してみます。一本の木に目をとめる、コップ一杯の水を大切にする、静けさに耳を澄ます、など。

10枚のカード、10日間、世界の見え方がすこし変わるクラスへ。

ほかの進め方もできます。 学期中に週一枚ずつ使えば、毎回じっくり話し合えます。アースデイの週や世界環境デーの当日、植樹や栽培の日、遠足や校外学習の前後などに、10枚すべてを使うのもよいでしょう。大切なのはカードそのもので、日程にこだわる必要はありません。いつからでも始められます。取り組みは2027年12月まで続きます。

地域や学校によって事情はさまざまです：地域の慣習や学校の方針に合わないカード、あるいは子どもたちの知っている風景に合わないカードがあれば、そのカードは使わなくてかまいません。理由を説明する必要はありません。ほかのカードだけでも十分に成り立ちます。

10枚のカード —— 話し合いのための問い

どのカードも、あえて答えを一つに決めていません。「正しい読み方」はありません。以下の問いは台本ではなく、話し合いのきっかけとしてお使いください。子どもたちの年齢に合わせて、また、教室の窓の外にある木や川や天気に合わせて、言葉を言いかえてください。

カード 1

一粒の種が森を育てる。

- 一粒の種は、どうやって森になるのかな？ なにが起こって、どれくらいの時間がかかるのだろうか？
- きょう始められる小さなことで、いつか自分より大きく育つかもしれないものは、なにかな？
- だれかがあなたの中にまいてくれた「種」——考え方、習慣、やさしさ——で、いまでも育っているものはあるかな？

カード 2

木にふれるとき、あなたは宇宙の根にふれている。

- 木が「宇宙の根」につながっているって、どういうことだと思う？
- きょう、木にふれてみよう。目で見ただけでは気づかなかったことで、手でふれて気づいたことはあるかな？
- 目には見えないけれど、わたしたちがつながっているものは、ほかになにがあるかな？

カード 3

どの花も、はじめは野に咲いていた。

- 花だんの花も、はじめはみんな野に咲いていた。これは、どういうことかな？
- わたしたちが、つい「きれいに片づけて」しまう野のものって、なにがあるかな？ 自然の中で、そして人の中で。
- あなたの中にある「野のまま」のもので、大切にしたいものはあるかな？

カード 4

川はいつも、流れる道を知っている。

- 川はどうやって、流れる道を知っているのかな？ なんについていくのだろう？
- 学校の近くの水は、どこから来て、どこへ行くのかな？
- どうしたらいいかわからないとき、あなたはなにについていく？

カード 5

雨を受けるべく、壺を差し出せ。

- 雨を受ける壺（つぼ）は、どうして雨がふったあとではなく、ふる前に差し出しておくのかな？
- ときどきしかやってこない、よいものってなにかな？ それがやってくるとき、どんな準備ができるだろう？
- あなたの住んでいる地域では、雨にそなえて、または雨がふらないときにそなえて、どんなことをしているかな？

カード 6

蓮のそばを急いで通り過ぎてはいけない。

- どうして人は、きれいなもののそばを急いで通り過ぎてしまうのかな？
- あなたの通学路にある「蓮（はす）」はなにかな？ 毎日通るのに、見ないで通り過ぎているものは？
- あした、ためしてみよう。なにか一つの前で、10秒だけ立ち止まる。なにが見えたかな？

カード 7

静寂に耳を澄ますことを学べ。

- 静寂（せいじゃく）って、聞こえるのかな？ 教室がしんとしたとき——森がしんとしたとき——耳を澄ますと、なにが聞こえる？
- あなたの知っている、いちばん静かな場所はどこかな？ そこには、なにが住んでいる？
- 窓を開けて、みんなで1分間、静かにしてみよう。クラスには、なにが聞こえたかな？

先生方へ： みんなで静かに過ごす1分間は、それ自体が一つの活動です。静かにするのは「聞く」ためであって、罰ではありません。じっとしていられない子がいても、それは失敗ではありません。低学年の子どもたちは、まず30秒から始めるとよいでしょう。

カード 8

山あれど、谷はなく、砂漠あれど、海はなし。そんな世界を想像してごらん。

- 山はあるのに谷がない、砂漠はあるのに海がない——そんな世界を想像してごらん。どうして、ありえないのかな？
- 地球には、どんな「反対どうしの組み合わせ」が必要かな？ 人には、どんな組み合わせが必要だろう？
- あなたの「谷」——低いところ、つらいところ——が、あとでなにかよいことにつながったことはあるかな？

カード 9

木を切り倒すとき、あなたは未来の世代の手足を切り落としている。

- 「未来の世代」って、だれのことかな？ 100年後に生きている人を、一人思いうかべられる？
- 木がわたしたちに与えているもので、なくなったらさびしいものは、なにかな？
- ことし、このクラスで植えたり、守ったり、大切にしたりできるものを、一つ考えてみよう。

先生方へ：この言葉は強い言葉です。多くの家庭が、木材や農業、山や土地の仕事によって暮らしを支えており、木を切ることが暮らしの一部である地域も少なくありません。このカードは、だれかの家族や地域を責めるものではありません。問いの中心は「これからどう大切にしていくか」であって、だれかのせいにするものではありません。また、地球の未来をとっても心配している子どももいます。このカードは、失われたものではなく、できること——一本の木を植える、一つの習慣を変える——に目を向けて使ってください。

カード 10

人類の木は、幹が一つ、枝はさまざま、葉は幾十億。

- 人類が一本の木だとしたら、幹はなにかな？ 枝はなに？ 葉は、だれかな？
- 一枚一枚見た目はちがっても、すべての葉が分かち合っているものは、なにかな？
- 木はどうやって葉を大切にしているのかな？ そして葉は、どうやって木を大切にしているのだろうか？

カードとポスターのその他の使い方

- **一枚取り、一枚残す：**子どもたちは自分のために一枚取り、知らない誰かのためにもう一枚残します。机の上、図書室の本の間、地球の壁などに。
- **ポスターは、**子どもたちが毎日目にする場所に貼りましょう。教室の壁、廊下、図書室、食堂、あるいは学校の花だんや菜園のそばなど。
- **外に出て：**木の下で、川のほとりで、校庭で、カードを読んでみましょう。このカードは屋外で書かれました。外こそが、カードの本来の居場所です。
- **なにかを植える：**コップに一粒の種、校庭に一本の木、野の花の花だん。植える日に「一粒の種が森を育てる。」を読み、育っていくもののそばにカードを置いておきましょう。
- **全校集会・クラブ活動で：**集会の始めにカードを一枚読みます。理科や図工・美術、環境委員会やエコクラブの活動で、一枚のカードをテーマにするのもよいでしょう。

- **子どもが主体となって：** その日のカードを子どもたちに選んでもらったり、2分間の話し合いの進行役を任せたり、自分たちで地球の壁をデザインしてもらったりしましょう。
- **言葉を絵にする：** カードの言葉を、子どもたちに絵や写真で表現してもらいましょう。その言葉は、子どもたちの住んでいる場所では、どんな姿をしているのでしょうか。地元の木、川、空を集めた教室ギャラリーは、すてきな展示になります。
- **輪を広げよう：** 教室の壁、子どもたちの作品、お気に入りのカードを撮影して、オンラインで共有してください。どのカードにも著者名が入っているので、共有するたびに次の作品へとつながります。（子どもたちのプライバシーを守るため、学校で定められた許可がない場合は、氏名や顔が写らないようご注意ください。）**写真をぜひ私たちにもお送りください。**
press@pembaumoja.com 宛てに、学校名を添えてメールでお送りいただければ、pembaumoja.comで貴校をご紹介させていただきたいと思います。

子どもが地球の未来をこわがっていたら

カードがきっかけとなって、子どもが心を開くことがあります。子どもが、地球に起きていることがこわい、と打ち明けてきたら：

- 落ち着いて話を聞いてください。世界を心配するのは、世界を大切に思っている証です。その気持ちを大切に受けとめてください。「大丈夫、なにも心配いらない」と軽く流したり、逆に不安をあおったりしないでください。
- できることに目を向けてください。一本の木、一つの習慣、クラスで取り組む一つの活動。子どもは、自分の手でできることがあると、心配と上手につきあえるようになります。
- カードは、気づき、大切にすることへの招待であって、未来の予測ではありません。子どもの不安が重い、または長く続くようであれば、学校の通常の手順に従い、スクールカウンセラーや教育相談担当、管理職に引き継いでください。

権利と利用許可 —— わかりやすい説明

- **ぜひどうぞ：** 印刷、コピー、壁への掲示、読み聞かせ、プロジェクターでの投影、掲示の写真のオンライン共有、学級通信や学校だよりへの掲載など。Pemba Umojaの名前を明記していただけるとうれしいです。すでにどのカードにも入っています。
- **自分たちらしく：** 言葉を使って、独自のデザインを作ってください。学校のロゴを入れたり、言葉の意味を子どもたちに絵や写真で表現してもらったり、元の言葉のまわりに子どもたち自身の言葉を添えたりしてもかまいません。共同制作は大歓迎です。ただ一つのルールは、カードの言葉そのものは書かれたとおりのまま変えず、Pemba Umojaの名前を添えることです。

- **新しい言語も歓迎します：** 現在13言語をご用意しています。あなたの言語がない場合は、カードを翻訳して私たちにお送りください。母語話者と一緒に確認し、心に響く訳になっていれば、貴校のお名前を添えてウェブサイトに掲載します。
- **ご遠慮ください：** カードを販売すること、営利目的の商品に使うこと。

カードの著作権はPemba Umojaにあります。© Pemba Umoja. 無断転載を禁じます。出典を明記すれば無料で共有できます。それこそが、この取り組みのいちばんの願いです。

よくある質問

本当に無料ですか？ 何か条件はありますか？

無料です。このカードは作家からの贈り物です。購入するものも、アカウント登録も、メールマガジンへの登録もありません。

これはアースデイや国連の公式プログラムですか？

いいえ。この教材は、アースデイ（4月22日）と世界環境デー（6月5日）の趣旨に沿って作られ、各学校とASPnetのコーディネーターに共有されています。ただし、国際連合、ユネスコ、国連環境計画（UNEP）、EARTHDAY.ORGの出版物ではなく、これらの公式な承認・推奨を受けたものでもありません。

何歳向けですか？

カードは幅広い年齢で使えます。話し合いの進め方は先生が決めてください。低学年の子どもたちは、言葉のイメージや簡単な行動（木にふれる、雨を受ける、静けさに耳を澄ますなど）によく反応します。高学年の子どもたちは、上の問いをもっと深く考えたり、その背景にある理科や地理の学びへ進んだりすることができます。

学校にプリンターがありません／白黒しか印刷できません。

PDFは白黒印刷に対応しています。プリンターがまったくない場合は、カードを読み上げるか、プロジェクターで映してください。いちばん大切なのは話し合いです。印刷を少なくすることは、このカードの精神になっています。

宗教的、政治的な内容ですか？

どちらでもありません。カードは特定の宗教や政治に関わらない、普遍的な内容です。自然の世界に目をとめ、大切にし、その一員であることがテーマです。特定の政策や政党について、いかなる立場も取りません。

うちの子どもたちは、森も砂漠も蓮も見たことがありません。

窓の外にあるものを使ってください。中庭の一本の木、水道の蛇口、雨上がりの水たまり、空のひとかけら。カードの言葉は「目をとめること」についてのものです。どの学校にも、目をとめるものはあります。どうしても風景に合わないカードがあれば、使わなくてかまいません。

地域や学校に合わないカードを飛ばしてもいいですか？

もちろんです。地域の慣習や学校の方針に合わないカードがあれば、使わなくてかまいません。理由の説明も不要です。ほかのカードだけでも十分に成り立ちます。

カードを地域の言葉に翻訳してもいいですか？

ぜひお願いします。そして、その翻訳を私たちにお送りください。母語話者と一緒に確認し、心に響く訳になっていれば、貴校のお名前を添えてウェブサイトに掲載し、ほかの学校でも使えるようにします。

学校のロゴを入れたり、デザインを変えたりしてもいいですか？

はい、自分たちらしいデザインにしてください。学校のロゴを入れる、子どもたちに言葉の絵を描いてもらう、言葉のまわりに新しいレイアウトを作るなど、自由です。ただ一つのルールは、カードの言葉そのものは書かれたとおりのまま変えず、Pemba Umojaの名前を添えることです。

アースデイに始めなければいけませんか？ 10日間が終わったら？

いいえ。2027年12月まで、いつからでも始められます。10日間が終わったら、お気に入りのカードをもう一度取り上げたり、クラスで植えたもののそばに一枚置いておいたり、新しい季節に新しいクラスでもう一度チャレンジしたりしてください。

Kindness 2027とEarth 2027を一緒に使ってもいいですか？

はい。この二つは姉妹編として作られました。秋にやさしさカード、春に地球カードを使う学校も多くあります。最後の地球カード「人類の木」は、二つのセットが出会う場所です。

私たちの学校をウェブサイトで紹介してもらえますか？

ぜひ紹介させてください。教室の壁、学校の花だんや菜園、子どもたちの作品の写真を、学校名を添えて press@pembaumoja.com までメールでお送りください。pembaumoja.comでご紹介させていただくことがあります。写真の掲載について、学校で定められた許可を必ずご確認ください。許可がない場合は、子どもの氏名や顔が写らないようお願いします。

質問はどこに問い合わせればよいですか？

このガイドが添付されていたメールに返信するか、press@pembaumoja.com までご連絡ください。13言語のどの言語でも、お気軽にご質問ください。

コーディネーターの皆様へ：お願いしたいこと

このガイドを受け取られた各国コーディネーターの皆様へのお願いはシンプルです。アースデイ（4月22日）や世界環境デー（6月5日）に合わせて、または2027年12月までのお好きな登校日10日間に、**このカードセットを担当校にご紹介ください。**普段、学校へのご連絡にお使いの方法で結構です。

校長先生へのご紹介文（このまま転送していただいてもかまいません）：「作家のPemba Umojaが、印刷できる10枚の地球カードとポスターのセットを、13言語で学校に無料提供しています。アースデイと世界環境デーに合わせて作られたものです。費用も登録も不要で、印刷してすぐに使えます。話し合いのための問いを収めた、先生向けの短いガイドもあります。」

Earth 2027 · pembaumoja.com

このカードは、出典を明記すれば無料で共有できます。© Pemba Umoja. 無断転載を禁じます。

このガイドは、心を込めて日本語で作成しました。誤りや不自然な表現にお気づきの際は、press@pembaumoja.com までお知らせください。修正するとともに、心より感謝いたします。